

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「現場の混乱を招かないために」
「各地で米価が大幅下げ」

先般、自民党の水田農業振興議員連盟にてJA全中・全農から、各産地の概算金の決定状況や2年産米の契約・販売状況が報告されました。それによると、順調に販売が進んだとしても2年産米の動きが鈍く、持越在庫が42万トンと例年の2倍程度に膨らむ見込みです。また、私はずっと概算金にこだわって発言してきましたが、その概算金も業務向けを扱っている産地を中心に二万円を下回る地域がほとんど出てきている状況であり、やはり昨年からの新型コロナ禍の影響で需要が大きく落ち込んでいることが関係しています。熊本県も概算金が提示されましたが、主要品種のヒノヒカリ・森のくまさんは前年より1500円下げの設定と報告を受けました。農家・JAグループの皆さまが精いっぱい努力して転作に取り組んだのに、米価がこんなに下がっては農家の皆さんが納得されるはずがありません。このような在庫状況になっていることに對し農水省が提出した需給見通しは懐疑的であり、私は持越在庫の米を動かす販売環境の必要性を強く発言してきました。

しかし、農水省からはコロナで生活困窮者が増加している状況で米価を吊り上げる政策は難しいとか、備蓄米と

して用途変更し政府が買い上げるとなる全国的な作付転換が進まないため、需要に応じた生産・集荷・販売を続けていくことが必要等と回答されました。私も、そして出席していた先生たちからも、その回答は到底納得できないと一時糾糾した場面もありました。

これだけコロナの影響を受けている米に対しては、周年事業の補助率の拡充や販売促進対策措置などの市場隔離策を含め、少しでも多く追加精算できるように措置が必要であるため、その対策実現に向けて引き続き頑張ります。

「新政権の発足、迫る衆院選」

9月29日に投票された自民党総裁選挙において、岸田文雄議員が新総裁となり、10月4日に召集された臨時国会の首班指名にて第100代内閣総理大臣に任命され「岸田内閣」が発足しました。新政権発足も束の間、衆議院議員選挙が目前に迫ってきました。農繁期の真っただ中での選挙戦になりますが多くのご支援をよろしくお願い申し上げます。



▲8月の大雨被害による現地視察(福岡県)

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「主食たる」コメを

「投機の商品にしてはならない」

「月刊誌「選択」に私の名前が初登場」

「選択」という月刊誌(9月号)の「衰弱する農林族」コメ議員」の記事に、私の名前が初登場しました。本来からすると喜んでいいのですが、ごうも、私の発言を非難する内容になっている。一瞬、落ち込んだのですが、しかし、「選択」側の言いぶりは、「市場原理で競争すればいい」との主張であって、納得のいかないものです。

農業者もJAも、「コメの販売で太儲けしよう」などと考える人は全くいません。「コメを安定して供給し、経営を継続できる、コストに見合った価格の実現を求めているだけです。」

価格形成は、確かに変わってきています。かつてはコメの市場が立てられ、先物・現物も含めて、生産者が行うのでなくて、先の見える取扱業者が、儲けを主眼として、投機的な取引も含めて、価格形成がなされてきました。それを克服すべく、国による全量管理制度の下で、安定供給とコストに見合う価格形成がなされ、地域の農業

協同組合が、それを支えてきた。その仕組みと努力が、国民への主食の安定供給を実現してきたのです。

「日本の国土に適った

大切なコメづくりを守ります」

それにもかかわらず、再び、投機的な取引の世界に戻るのか。

今後はさらなる規模拡大や、機械化、法人化等による経営もすみ、多くの取扱業者の参画による多様な価格形成の仕組みも拡大するでしょう。

しかし、わが国の地域における農業生産の主要な柱である「コメ」については、金融の世界で、儲けだけを狙いにして、後先を考えない思想には絶対に踏み込んでほしくないのです。



▲水田農業振興議員連盟を開催し、緊急コメ対策を議論

参議院議員

Fujiki Shinya
activity report

藤木しんや

農家の声
を
国政に!

活 動 報 告



岸田衆議院議員と
JAいしのまきとの
リモート意見交換会



第19回かながわ農政懇談会にて
国政報告



JA全国女性協理事会にて
国政報告(Web)



米国産スモモ輸入解禁に
関する要請(JA山梨中央会)

PICKUP!



[9月3日 自民党水田農業振興議員連盟にて農水省へ意見]

- 農水省は、コロナの影響はなかったと報告されたが、これはあくまでコロナ影響の需要減であり、それを念頭に対応しないと農家からの非常に厳しい評価に繋がると思う。
- これだけ転作を頑張ってもなぜこんなに米価が下がるのかというのが、全国から多くいただく現場の声である。
- 米穀周年事業をどれだけ上手く使っても、市場に出てくれば影響がある。市場隔離が無理でも、一定の処理をしないと改善につながらない。農水省にはそこを考えてもらい、しっかりとした方向性を示してほしい。概算金が出た後の販売にも響いてくる。適正な販売環境を作っていただきたい。

